

## 広報委員会行政視察報告

広報委員会では、高松市と豊岡市を行政視察しました。

概要は以下のとおりです。

- (実施期間) 令和8年2月16日～令和8年2月18日  
(視察都市) 高松市、豊岡市  
(視察内容) 高松市：たかまつ市議会レポートについて  
豊岡市：豊岡市議会だよりについて

〔高松市〕

高松市では、たかまつ市議会レポートについて説明を受けた。

たかまつ市議会レポートのレイアウト見直しは、令和6年1月に広報紙編集委員会で紙面の窮屈さや広報の在り方への問題提起があったことから始まった。新人議員の増加で一般質問者が増えたことや、新たな視点での紙面づくりの必要性が指摘され、6名の議員によるプロジェクトチームが結成された。チームは広報紙の目的や紙媒体の意義、読者が関心を持つ内容について検討し、全議員の意思統一を図るため研修会も実施した。変更は令和7年8月発行号から適用された。

予算内でページ数を維持しつつ内容を刷新し、読みやすさ向上のため横書きのレイアウトへ変更を行った。表紙と特集ページは議員が編集し、市民視点の内容を重視するため表質問の掲載を縮小した。一般質問は議員ごとに掲載スペースを均等化し、全戸配布へ切り替えることで自治会加入率の影響をなくした。

発行までの流れは、定例会2か月前の編集会議で特集内容を協議し、定例会中に議員が特集を作成、事務局がその他記事を担当するといものだった。レイアウト変更後のアンケートでは、見やすくなったとの声が多い一方、年配層からは縦書きの方が読みやすいとの意見もあった。

委員からは、議員による特集記事の作成については、どういう経緯で実施に至ったのかなどについて質問が出された。



(高松市での視察風景)

〔豊岡市〕

豊岡市では、豊岡市議会だよりについて説明を受けた。

豊岡市議会だよりのレイアウト変更は、若年層にも手に取ってもらえる紙面づくりと、市全体の広報物との統一感を高めることを目的に進められた。広報広聴特別委員会では、雑誌のようなデザインを目指すこと、カタカナ語や数字が増える現代の読みやすさに対応すること、市の広報紙が左とじへ先行して変更しているため形式を揃えることが方針として示された。

変更は段階的に行われ、令和7年5月発行の第101号で一般質問を横書きのレイアウトとし、同年8月の第102号以降で他の記事も順次横書きへ移行し、12月の第104号からは左とじへ変更となった。令和8年には全ページカラー化も予定されている。

一般質問者の記事の作成手順として、まず事務局が会議録を基に一般質問者へ原稿作成を依頼し、質問者は原稿・写真・キャプションを作成する。広報広聴委員が内容を精査して本会議での発言と一致するよう調整する。

また、委員は、地域で活躍する人物や団体取材し「まちの仕掛け人」記事を作成し、表紙写真も撮影する。初校チェックでは、記事の言い回しを読み上げながら全員で確認し、修正があれば各会派へ連絡して校正を進める。最終校確認後、事務局と委員長が最終調整を行い発行となる。

レイアウト変更後は、市民・議員から「読みやすくなった」という肯定的な反応が寄せられており、レイアウト変更が一定の効果を上げている。

委員からは、議員が取材を行う「まちの仕掛け人」とは、どういう基準で選定しているのかなどについてが質問が出された。



(豊岡市での視察風景)